

いつかばったり (春版)

作・広田淳一

いつかばったり

今までいろんな人たちと出会ってきたけれど、

まだ出会ったことのない人、

といつのがこの世界には、まだまだ、たくさんいる、

その中には出会ったらきっと楽しい、

とても素敵な、

うまい酒の酌み交わせぬ、

ものすごく趣味の合う、

ずっと一緒にいても疲れないう、

よゆうな、

そういつ人たちがたくさんたくさんいるのかもしれない。

そんな人たちと、どこどこか、

いつか、ばったり。

期待して、目を閉じる。

コーヒーを飲みながら。

期待して、

ミルクティーを飲みながら。

目を、閉じる。

春の花が好き。

何の意外性もない時期に、当たり前のように咲く、あの、間の抜けた感じ。その、素直さ。

が、好き。

スイセンとか、サクラとか、ナノハナ、ツバキ、ヒヤシンス、パンジー。

そういつ、カラフルな花たちと洋服の色を合わせて外を歩くのが、好き。

だったのー！

こないだ自転車に乗って買い物に行こうかと思って、ふとハンドル握って空を見上げたら、あ
あっという間にサクラの花はもう散ってしまっていて、ああ……ってなって

「そんじゃ、また一年後」

って、そう言われたよゆうな心地がして、うあーって。

うあーってなって、大変、遺憾だった。

よく見れば、公園とか、道路とか、ガードレールとか、あまどいとか、スナックの看板とか、
そんなものたちの周りにも散ってしまった花びらがいっぱい、それに私はうかうかと気がつか

そうかもしれない。かもしれない。
いや、きつとそうだ。

もはや認めざるをえない。

「あたしには、人を見る目が、ないみたい」
はは。

いや、笑い事じゃない。

やっべ。どこで落として来たんだろう？ あたしの「人を見る目」。

そもそも人を見る目って何？ どんにかして手に入れられるものなんだろうか？

人生経験とかいっぱい積んで、人間観察とかいっぱいして、あるいは、どっかに売ってたら結構いい値段でも買つのに。

人を見る目。

買つな。買つちやうな、じりや。

二十七万までなら出す！

なぜなら、普通運転免許証よりも私は人を見る目が欲しいから！

去年せっかく免許をとったというのに、一回、車庫入れに失敗してブロック塀にお尻をこすつて以来、全くハンドルを握ってないんです。一年にして。ペーパードライバーになった私が今後、車乗るタイミンングを見つめるにはおそろしい生無いです。

そつすねは、

無傷の私の運転免許は、めでたくゴールド免許になるでしょう。

そつすねは、

無傷の私の運転免許は、何の価値もない、ゴールド免許になるでしょう。

「人を見る目」は、えんじのカラーコンを入れたみたいな鈍い赤色をして、あたしに買ってもらう日をじつと待っている。古びた雑貨屋さんの店頭で、在庫処分で並べられた薄汚れたワゴンの中にそれはあって、何かの間違いじゃないですか？ って感じで「二十七万円」という値札が堂々と貼っつけてある。

「人を見る目。二十七万円」

そんなはずはない。

でも、

バカげてる。

んなアホな。

でも、あつたらきつと買ひ。

落っこいってたらきつと買ひ。

あーあ。

はーあ。

はあ。

ハー。ハー。
息が白い。
雲が遠い。
風が冷たい。
朝の空気は冷たくて、頬に当たるとちよつと痛い。
マスクでもしようか。

マスクをすると、鼻から入る空気に適度な湿気が保たれて喉がうるおい、風邪の予防にもなり、しかもメイクをしていなくてもあんまり突っ込まれない、と、いい事がいっぱいあるのです。あと、なんか落ち着へうんうん。

電車に乗るときは、マスクと帽子とダテメガネ、それにフードまでがっしり被って一番端っの座席に座りたい。みんな死ぬ。とか思いながら銀色のポールに寄りかかって、じじいへらり鋭気を養いたい。
マスクも邪魔。

帽子もダテメガネもフードもぜんぶ邪魔。
だけど、
邪魔なものたちが私を守ってくれる。

から、ちよつと好き。
邪魔だけが好き。
好きだけが邪魔。
邪魔するな！
どげどげー！

いつか、ばったり、
できないだろうか。
今までいろんな人たちと出会ってきたけれど、
まだ出会ったことのない人、

とというのがこの世界には、まだまだ、たくさんいて、
その中には出会ったらきまつと楽しい、とても素敵なの
うまい酒の酌み交わせぬ、
ものすごく趣味の合う、
ずっと一緒にいても疲れないう、
おんな、

そういう人たちがたくさんたくさんいるのかもしれない。
そんな人たちと、どっどこにかいて、
いつか、ばったり、期待して。

目を閉じる。
帽子とダテメガネとマスクとフードを外して、
ゆっくら、
暖かいコーヒーを飲みながら。
いつか、ばったり。
期待して。
目を閉じる。
期待して。
目を。